
OPUSユーザーズマニュアル

マルチチャンネルアンプシュミレーター、DynIRエンジン、アンプDI、IRローダー、サイレントステージソリューション



全な取扱説明書電子版およびTwo notes Audio Engineeringのソフトウェアやハードウェア製品はアップデートの対象となります。最新バージョンの製品は、Two notes Audio Engineeringのウェブサイトからダウンロードできます。

このマニュアルでは製品OPUSについて説明し、その操作手順を提供します。製品を使用する前にこのマニュアルをお読みいただくことを強く推奨します。このマニュアルの内容はきちんと検証されており、特に明記されていない限り、工場からの出荷時または当社のWebサイトからのダウンロード時点の製品状態を元に説明していると考えられています。

Two note Audio Engineeringは、下記組織の登録商標です。

OROSYS SAS

76 rue de la Mine 34980 Saint-Gély-du-Fesc France

Tel: +33 (0)484 250 910

Fax: +33 (0)467 595 703

Contact and support: <http://support.two-notes.com> 連絡先及びサポート

Website: <http://www.two-notes.com> ウェブサイト

このドキュメントは、OROSYS SASの独占的所有物です。製品開発のために、OROSYS SASは、事前の通知なしに技術仕様を変更、修正、および/または生産を中止する権利を留保します。OROSYS SASは、OPUSの不適切な使用に起因する偶発的またはその他の損害について責任を負いません。このマニュアルに記載されている安全上の注意を参照してください。このドキュメントのいかなる部分も、OROSYS SASの書面による許可なしに複製することは固く禁じられています。

すべての製品名および商標は、それぞれの所有者に帰属します。本書に記載されている製品名および商標は、OPUSの開発時に使用されたものであり、OROSYS SASとは一切関係ありません。

序文

1. 安全上の注意

製品を使用する前に、以下の情報を注意深く読み、留意する必要があります。このドキュメントは、ユーザーと製品の両方を保護するために重要であるため、安全な場所に保管してください。デバイスの誤動作が疑われる場合は、常に資格のある技術者の支援を得てください。

1.1 読者への警告



感嘆符の付いた三角形囲みで、デバイスの正しい使用に関する重要なメッセージを強調表示します。

1.2 電源アダプター

電源アダプターが必要とする電圧が、あなたの国の電圧と一致していることを確認してください。そうでない場合、または不明な場合は、本機をコンセントに接続しないでください。主電源アダプターや本機の損傷、けがの原因となります。雷が鳴っているときは、本製品を使用しないでください。落雷の恐れがある悪天候の場合は、感電や火災の危険を避けるため、電源アダプターのプラグを抜いてください。本機に付属の主電源アダプターは、製品を購入した国の規格に準拠しています。

1.3 安全使用条件

OPUSは熱源や炎の近く、雨中や湿気が多い場所、液体の近くでは絶対に使用しないでください。ユニットを運搬する際には、衝撃を避けるよう注意が必要です。損傷が発生した場合は、資格のある技術者の作業が必要になります。

1.4 クリーニング

クリーニングには、常にアルコールや溶剤を含まない、乾いた柔らかい布を使用してください。ユニットを清潔に保ち、ほこりがないようにしてください。

1.5 メンテナンス

すべてのメンテナンス作業は、OROSYS SASによって承認されたサービスセンターまたは資格のある技術者によって行われる必要があります。自身でユニットの分解、修理を行わないでください。

2. パッケージの内容

出荷されたパッケージには以下が含まれています:

- 1x OPUS本体 (保護スリーブ)
- 1x 主電源アダプター
- 1x USBケーブル
- 1x 256 MBメモ리카ード
- 1x MIDI to 1/8 "ジャックケーブル
- 1xクイックスタートガイド

このマニュアルの完全な電子版は更新される場合があります。

3. 適合宣言

- メーカー:OROSYS SAS
 - 製品カテゴリー:デジタルオーディオシグナルプロセッサ
 - 製品:OPUS
 - 試験責任者:Guillaume Pille
-

OPUS is certified to be compliant to the CE and FCC standards: OPUSは、CEおよびFCC規格に準拠していることが認定されています。

EN 55103-1 : 1996 and

EN 55103-2 : 1996.

EN 60065 05/2002 + A1 05/2006.

EMC directive 89/336/EEC and Low Voltage Directive 73/23/EEC.

FCC Part 15 : 2008.

ICES-003 : 2004.

AS/NZS 3548 class B for Australia and New Zealand.

IEC : 2008 - CISPR 22 class B.



4. 欧州連合の個人家庭のユーザーによる廃棄物の処分製品



本製品またはそのパッケージにあるこの記号は、この製品を他の家庭ごみと一緒に廃棄してはならないことを示しています。代わりに、廃電気電子機器のリサイクルのために指定された収集場所に廃棄物を引き渡すことにより、廃棄物を処分するのはあなたの責任です。廃棄時に廃棄物を分別して収集してリサイクルすることで、天然資源を保護し、人間の健康と環境を保護する方法でリサイクルすることができます。リサイクルのために廃棄物をどこに持ち込むことができるかの詳細については、最寄りの市役所、家庭ごみ処理サービス、または製品を購入したショップにお問い合わせください。

5. 保証

OROSYS SASは、このTWO NOTES AUDIO ENGINEERING製品が、購入日から2年間、通常の動作条件下で使用された場合、部品および製造上の欠陥がないことを保証します。この保証は、TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGの正規販売店から購入した最初の購入者にのみ適用されるものとします。

重要:購入レシートは限定保証の対象となる購入の証明であるため、保管してください。
この限定保証は、購入レシートがないと無効になります。

この保証の対象となる欠陥のある製品は、(OROSYS SASの独自の裁量により)同等または同等の製品と無料で修理または交換されます。保証サービスが必要な場合は、認定TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGディーラーに連絡して、該当する保証期間中に購入証明書を添えて、完全な製品を最寄りの認定TWO NOTES AUDIO ENGINEERINGサービスセンターに返送するためのRMAを取得してください。

輸送費

本限定保証には、サービスセンターへの輸送費は含まれていません。OROSYS SASは、この保証の対象となる修理に関して、標準的な地上輸送の返送費用を負担します。本限定保証は、製品のシリアル番号が汚損または削除された場合、または製品が改造、誤用（不適切または不適合な周辺機器への接続を含む）、事故（雷、水、火などを含む）、または放置によって損傷した場合、無効となります。また、OROSYS SASによって承認されていない者が修理を試みた場合も、本保証は無効です。州または地方の法律で課される商品性の黙示保証や特定の目的への適合性の黙示保証を含むいかなる黙示保証も、本限定保証の期間に限定されます。一部の州や地方では、黙示保証の期間に関する制限を許可していないため、上記の制限は適用されない場合があります。

責任の制限

OROSYS SASは、この製品の故障による財産損害、または同製品の使用不能による収入の損失、満足感の喪失、または損害に対して一切の責任を負いません。

TWO NOTES AUDIO ENGINEERING製品を他の場所にする必要がある場合、元の梱包材を保持することが非常に重要です。これらの材料なしで製品を輸送すると、損傷を避けるのが非常に困難です。OROSYS SASは、不適切な梱包による製品の損傷に責任を負いません。また、元の梱包材なしで返送されたユニットに対して、再梱包料金を請求する権利を有します。

保証の排他性

上記は、OROSYS SASによって製品に関して行われる唯一の保証であり、明示的または黙示的に他のすべての保証に代わるものであることを明示します。

OPUSについて

1. OPUS紹介

OPUSのご紹介です。OPUSは、トーンシェーピングの全工程を網羅したアンプシミュレーターであり、DynIR™エンジンを搭載し、Two notesエコシステムの次なる進化のマイルストーンを切り開きます。C.A.B.の系譜と高い評価を受けたデジタルキャビネットシミュレーションの伝統を基盤に、OPUSはPre- & Power-amp Tube-Stage Modeling™ (TSM™)、MIDI統合、および将来性を見据えたUSB-C規格を追加。すべてのプレイヤーに、どこでも持ち運べる最高レベルのトーンを提供します。

使いやすさを追求したTorpedo Remote (iOS/Android/MacOS/Windows)はトーンシェイピング体験の結節点として機能します。携帯電話、タブレット、デスクトップに接続するだけで、OPUSアーキテクチャー内のすべての編集可能なパラメーターと1:1の自由な統合を体験できます。轟くようなハイゲインの猛攻、ペダルボード・リグの土台となる崇高なクリーン、魅力を奮い立たせるブリット風の咆哮など、トーン面では、最先端のデジタル・アンプ・シムに求められるものがすべて揃っています。ギグバッグの中のバックラインであり、卓越したトーンの世界です。

2. OPUSのハイライト

- Tube-Stage Modeling™ (TSM™)テクノロジーによる究極のペダルプラットフォーム・アンプシミュレーターとDynIR™エンジン
 - 10種類のピュアなTSM™プリアンプエミュレーション
 - Exquisite TSM™パワーアンプシミュレーションと4つのチューブアンプモデル (6L6、EL34、EL84、KT88)を搭載した高品質な・Pentode / Triode、Push-Pull (PP)『Class AB』またはSingle Ended (SE)『Class A』パワーアンプ
 - デュアルマイク機能を備えたクラス最高のキャビネットシミュレーションを提供する内蔵DynIR™エンジン、各キャビネットには8つのマイクと12のルームエミュレーション
 - EQ、エンハンサー、ノイズゲート、リバーブを含む特級エフェクトとプロ仕様DSPプロセッサー搭載
 - Steve Stevens、Dave Friedman、Pete Thorn、George Lynch、Phil Xのキャプチャーを含む32のキャビネットをフィーチャーしたOPUSシリーズのDynIRキャビネットコレクションを事前搭載
 - 99のプリセット保存場所と、Pete Thorn、Michael Nielsen、Jack Gardiner、Tom Quayle、Adam Steel、John Browne、Jay Leonard Jなどを含む40以上の限定コレクションアーティストシリーズのプリセットを収録
 - Bluetooth®およびUSB統合により、Torpedo Remote (iOS、Android、MacOS、Windows)とのワイヤレス接続で専門家レベルのトーンシェーピング、プリセット管理、500以上のDynIRキャビネットのリアルタイム試聴が可能
 - 既存のセットアップへのシームレスな統合を可能にするMIDI入力機能 (MIDIブレイクアウトケーブルが付属)
 - 40以上のプレミアムア音響 I R含むデュアルスタティックIRローダーとアコースティックDI
 - 将来性のある高速データ転送のためのUSB-C接続
 - コンパクトで超ポータブルな置きサイズ感とで頑丈さ、ロードレディなメタルシャーシ
-

2.1 トップパネル



- 1- PRESET/PARAM エンコーダー
- 2- VOLUME/VALUE エンコーダー
- 3 - 有機ELスクリーン

2.2 右側パネル



- 4 - AMP/INSTRUMENT/LINE入力
- 5 - TO SPEAKER (警告!アンプがAMP入力に接続されている場合、対応するキャビネットまたは適切な負荷ボックスをペダルのスピーカー出力に接続する必要があります)
- 6 - IN LEVEL selector/ INレベルセレクター
- 7 - USB-C connector/ USB-Cコネクター
- 8 - POWER 電源

2.3 左側パネル



- 9 - Headphone Input /ヘッドホン入力
- 10 - MIDI IN /MIDI入力
- 11 - AUX Input(*) / AUX入力(*)
- 12 - Ground Lift Switch /グラウンドリフトスイッチ
- 13 - DI OUT / DI OUT出力
- 14 - LINE OUT / LINE 出力

(*) 注意:OPUSのAUX INはステレオ入力です。
ヘッドフォンでモニターする際にステレオトラックを再生することができます。OPUSでのギター/ベース信号の処理はモノラルです。
この処理はモノラルで行われるため、PHONES 出力からは常にモノラルで聴こえます。

2.4 背面パネル



15 - メモリーカードスロット

3. OPUSでのトーピドリモートアプリ

OPUSでトーピドリポートアプリ使用すると、コンピューターやモバイルデバイスからOPUSのDSPアーキテクチャ内のすべてのパラメーターを簡単に設定できます。特定のデバイス向けにアプリをダウンロードするにはwww.two-notes.com/torpedo-remoteをご利用ください。

3.1 パソコンの場合

3.1.1 パソコンでOPUSをTorpedo Remoteに登録する

まず、付属のUSBケーブルでOPUSをパソコンに接続します。



Torpedo Remoteを起動し、Two notesアカウントにサインインします。Two notesアカウントをお持ちでない場合は、「Sign Up」をクリックしてアカウントを作成してください。



"Register"ボタンをクリックしてOPUSをTwo notesアカウントに追加します。

3.1.2 Torpedo RemoteでOPUSを管理する

Torpedo Remoteを使用すると、以下のことが可能になります：

- ソフトウェアアプリケーションからOPUSの各パラメータを直接操作できます。
- OPUSプリセットの作成と管理
- プリセット、スタティックIR、DynIR™バーチャルキャビネットのOPUS内部メモリーの管理（こちらは機器をTWO NOTESアカウントに登録した場合のみ可能です。）

3.1.3 バーチャルキャビネット / IRローダーモードの概要



Torpedo Remoteのメインウィンドウでは、OPUSの全てのトーンシェイピングツール、プリアンプ、パワーアンプ、キャビネット、マイクを選択にアクセスできます。また、ウィンドウ上部のタブで内部メモリの管理もここで行います。

3.1.4 内部メモリ管理

Torpedo Remoteのデスクトップ版にUSB接続すると、CABINET MANAGER、IR MANAGER、PRESET MANAGERの各メニュータブを使用して、OPUSのDynIR™、サードパーティ製IR、プリセットをロードして管理するためのすべてのツールが提供されます。

各タブでは、左側のパネルにコンピューターで利用可能なファイルが表示され、右側のタブにOPUSの内部メモリーにロードされたファイルが表示されます。

3.2 モバイルデバイスまたはタブレット

3.2.1 ペアリング手順

OPUSとモバイル・デバイスまたはタブレットをペアリングする前に、アクセス可能なTorpedo Wireless Remoteアプリケーション (www.two-notes.com/here)がインストールされていることを確認してください。

インストール後、以下の手順でOPUSとペアリングしてください:

- Torpedo Remoteの下部にある「DEVICES」をタップします。
- 「Pair new device」をタップします。
- 「Pair an OPUS」をタップし、端末のOSが表示する画面に従ってペアリングしてください
- 端末のBluetoothメニューにOPUSが表示されます。
- OPUSの「BLE pin code」メニューに記載されているピンコードを入力する。
(OPUSのOLEDへのアクセスはMENU→Global→BLE pincode)

3.2.2 Torpedo Remoteのデスクトップ版との主な違い

デスクトップ版またはモバイル/タブレット版のTorpedo Remoteを使用する際には、OPUSの使用に影響を与える可能性のあるいくつかの明確な違いがあります。

モバイルアプリを通じて、OPUSからキャビネットやサードパーティの静的IRをロード/アンロードすることはできません。これらのプロセスは、ユニットがTwo notesアカウントに登録された後、デスクトップアプリケーションとUSB接続を介してのみ実行できます。

そのため、モバイル/タブレットアプリケーションには、CABINET MANAGER、IR MANAGER、およびPRESET MANAGERのタブがありません。

DynIR™キャビネットを購入しても、OPUSの内部メモリには自動的にロードされないため、Mobile/Tabletアプリケーションには表示されません。ただし、これらのキャビネットはデスクトップアプリケーションの「CABINET MANAGER」タブに表示され、適切なUSB接続を介してOPUSの内部メモリにロードすることができます。DynIR™バーチャルキャビネットがOPUSにロードされていれば、Mobile/Tabletアプリケーションでも表示されます。

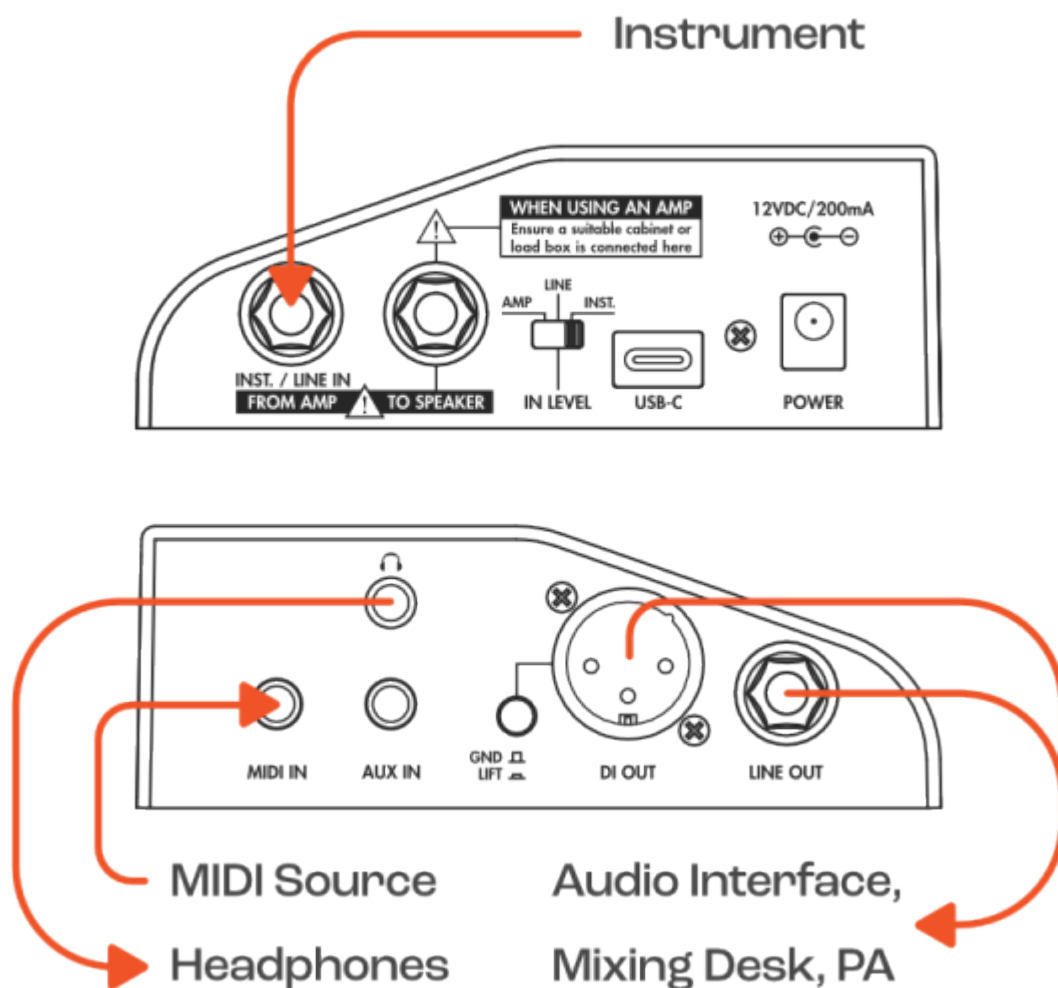
OPUSのセットアップシナリオ

OPUSは、以下を含む複数のセットアップシナリオで動作するように設計されていますが、これらに限定されません。

- アコースティックギター、エレキギター、またはベースギターをOPUSのINST./LINE IN/FROM AMP入力に直接接続する
- ペダル、ペダルボード、またはマルチエフェクトユニットをOPUSのINST./LINE IN/FROM AMP入力に接続する。
- 旧式なDIアンプとキャビネットのリグを使用して、OPUSのINST./LINE IN/FROM AMP入力とTO SPEAKER出力にそれぞれ接続する

ヒント OPUSはエレキギター・アコースティックギターとの併用も可能です。
上記の接続ガイドラインに従ってください。ただし、Torpedo Remote内での設定は異なりますのでご注意ください。接続方法アコースティックDIとしてOPUSを使う」をご覧ください。

1. ギターを直接接続する

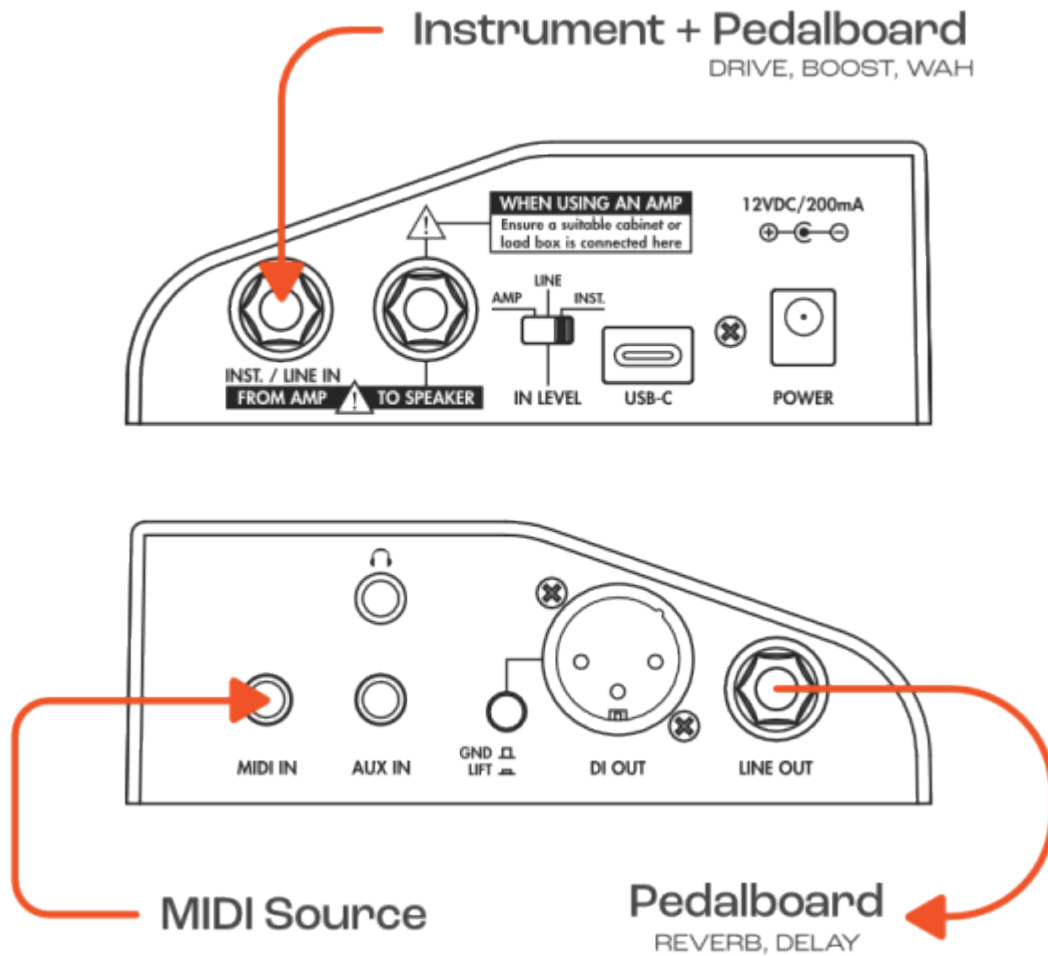


- ギターをOPUSのINST./LINE IN/FROM AMP入力に直接接続します。IN LEVELスイッチをINSTに合わせる。
- OPUS OLEDディスプレイの入力レベルVUメーターを確認します。入力信号がクリップしている場合は、ロータリーエンコーダーを使用してペダルのMENUに移動し、GLOBALセクションでスクロールします。セクションまでスクロールします。セクションに入り、INPUT PADページまでスクロールします。
- OPUS OLEDディスプレイの入力レベルVUメーターを確認します。入力信号がクリップしている場合は、ロータリーエンコーダーを使用してペダルのMENUに移動し、GLOBALセクションまでスクロールします。セクションに入り、INPUT PADページまでスクロールします。OPUSの入力段のクリッピングを防ぐため、入力信号を10dBリダクションします。
- XLR出力をオーディオインターフェース、ミキシングデスク、またはアクティブスピーカーに接続します。OPUSのすべての内部処理は、専用のヘッドフォン出力で静かにモニターできます。

トップアドバイス OPUSはエレクトリックアコースティックギターとの併用も可能です。以下の手順に従ってください。

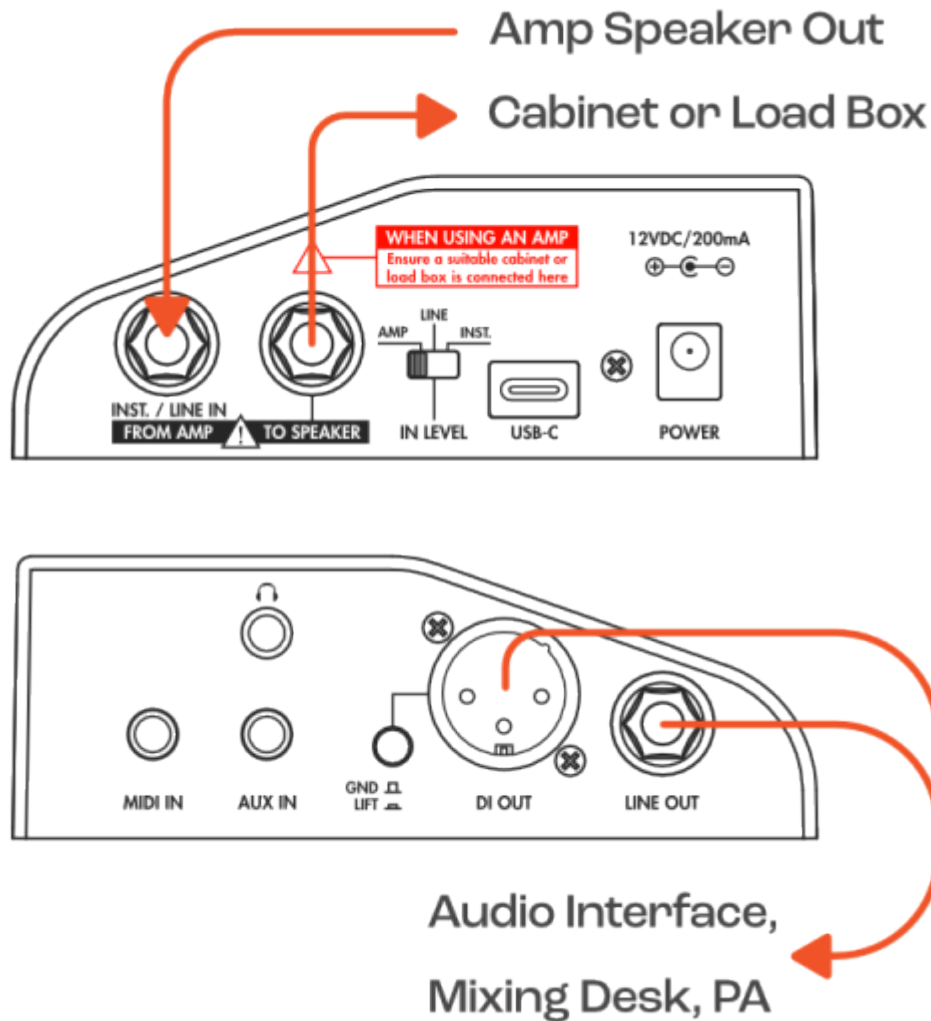
ただし、Torpedo Remote内での設定は異なりますのでご注意ください。

2. 究極のフライリグ



- 楽器用ケーブルを使用して、ペダルやペダルボードをOPUSの入力に接続します。
- IN LEVELスイッチをINSTに設定します。
- 入力レベルVUメーターを確認します。入力信号がクリッピングしている場合は、IN LEVELセレクターをLINEに設定します。
- XLR出力をオーディオインターフェース、ミキシングデスク、またはアクティブスピーカーに接続します。あるいは、OPUS内のすべての内部処理を専用のヘッドフォン出力を使用して無音でモニタリングすることも可能です。

3. ステージやスタジオでアンプへのマイクを使わない



- OPUSのSPEAKER OUTをロードボックスまたはキャビネットに接続します (OPUS自体はロードボックスではありません)。
- IN LEVELスイッチをAMPに設定します。
- OPUSのPREAMPおよびPOWERAMP処理をオフにします。
- OPUSのOLEDディスプレイにある入力レベルVUメーターを確認します。入力信号がクリッピングしている場合は、ロータリーエンコーダーを使用してペダルのMENUに移動し、GLOBALセクションまでスクロールします。このセクションに入り、INPUT PADページまでスクロールして、ONに設定します。これにより、入力信号が10dB減少し、OPUSの入カステージでのクリッピングが防止されます。
- XLR出力をオーディオインターフェースまたはミキシングデスクに接続し、OPUSのDSP処理を施したアンプの信号をそれぞれコンピュータまたはフロント・オブ・ハウスに送信します。この場合、キャビネットの旧式なマイク録りは不要です。OPUSは内蔵のDynIR™エンジンを利用して、すべてのキャビネットシミュレーションおよび関連するマイク録りを処理します。

OPUSでトーンを設定する

OPUS内では、次のシグナルチェーンが内蔵のDSP処理によって実行されます：

入力 ⇒ プリアンプ ⇒ ノイズゲート ⇒ パワーアンプ ⇒ キャビネットマイキング ⇒ EQ ⇒ エンハンサー ⇒ リバーブ

1. ノイズゲート

トップヒント：OPUSのノイズゲートは、Torpedo Remoteおよびペダルのメニュー内では最初にリストされていますが、実際にはプリアンプの後に動作します。これは、4ケーブルメソッドのノイズゲートユニットで一般的な方法です。



THRESHOLDパラメータは、ノイズゲートが作動するレベルを設定します。

信号がこのレベルを超えるとノイズゲートはオフになり、このレベルを下回るとノイズゲートが作動します。

LEARNボタンを押すと、Thresholdレベルが自動的に設定されます。

ノイズゲートの設定をスマートに学習させるには、まずギターのボリュームを最大に設定し、次に手で弦をミュートしてからLEARNボタンをクリックします。ノイズゲートは入力音を聴き取り、それに応じてThresholdレベルを設定します。弦を少なくとも3秒間ミュートし続けて、LEARNプロセスが入力信号を効果的に分析できるようにしてください。

2. TSM™ プリアンプ & パワーアンプ



OPUSのTSM™ (Tube Stage Modelling)エミュレーションは、上質のプロフェッショナル品質のプリアンプと完全にカスタマイズ可能なパワーアンプのを提供します。Torpedo RemoteウィンドウのTSM™アンプ区画内に以下が含まれます:

- 10種類の高品質なTSM™プリアンプエミュレーション。今後のファームウェアアップデートで追加されるプリアンプモデルのための10個のスロットを提供。
- 4種類のチューブアンプモデル (6L6、EL34、EL84、KT88)、ペントード/トライオード、プッシュプル (PP) 『Class AB』、またはシングルエンデッド (SE) 『Class A』パワーアンプのTSM™パワーアンプシミュレーション。

2.1 TSM™ プリアンプ

TSM™プリアンプ区画内では、次のプリアンプが利用可能で、あなたのトーンを形作ることができます:

- Foundry: ハイヘッドルームのクリスタルクリーンなトーンから、ペダルコレクションのための最高の土台音まで、Foundryがすべてを提供します。要するに温かみのあるサチュレーションに溢れ、クラシックなカリフォルニアクリーンの典型であり、あなたの演奏の微妙なニュアンスをすべて捉えるように設計されています。
- Peggy: 低音理論の頂点を求めるベースプレイヤーにはPeggyが最適です。複雑なハーモニック倍音、温かみのあるミッドレンジ、そして屋根を揺るがすほどの強烈なサウンドを提供し、クラシックな60年代のベースサウンドと、あらゆるトーンに対応する巧みに調整された柔軟性を完璧にブレンドしています。
- Albion: 伝説的なブリティッシュサウンドの轟きを求める時にはAlbionが最適です。リッチでボーカルのようなミッドレンジ、力強さ、圧倒的なパワーと長続きするゲインを備えたAlbionは、クラシックロックやハードロックの世界に飛び込む際の秘密兵器となります。
- Foxy: きらめき、明瞭さ、そしてバターのような滑らかな存在感を求めていますか? Foxyはそのすべてを提供します! 軽やかな高音、見事なブレイクアップ、そしてゲインを上げたときの気品のある中音域の食いつき感が特徴のFoxyは、スムーズなジャズから情熱的なロックンロールまで、あらゆるスタイルに対応します。
- NiftyFifty: ゲインを求めていますか? NiftyFiftyにはたっぷりあります! 攻撃的な歪はパンチがあり、非常に多用途で暖かく、どんなミックスでも際立つ鋭いリードトーンまでカバーします。メタルのダークな側面や80年代風の美德にインスパイアされたトーンであろうと、NiftyFiftyは現代のプレイヤーの武器としてふさわしい一品です。

-
- Tanger: 完全に調整されたクリーントーンからフルスロットルのハイゲイン猛攻まで、Tangerはすべての面に対応します!力強いパンチ、持続力、そして独自のブリティッシュインスパイアードなゲインステージを融合しているのです、Tangerは決して単なる一発屋ではありません!
 - ElDorado: タイトなレスポンス?✓。豊かなハーモニクス?✓燃えるようにバランスの取れたゲインと持続力?その通りです! このTSM™ プリアンプはハードロックやメタルの領域に踏み込むギタリストにとって、まさに「三拍子揃った」存在です。
 - Aviator: モダンで先進的なベーストーンの典型を求めるなら、Aviatorの低音、ゲインステージング、そして明瞭さへの妥協のないアプローチがすべての面で期待に応えます!
 - Gemini: アイコニックな西海岸クリーンの別角度を求めるプレイヤーには、Geminiがぴったりです!そのコアにはタッチに敏感な輝かしいクリーントーンがあり、プッシュすると暖かいブレイクアップが溢れます。オーバードライブペダルコレクションの最大限を引き出すための第一候補であり、ヴィンテージのスプリングリバーブと組み合わせてレトロなトーンの典型とした選択肢です!
 - FlatBack: カリフォルニア生まれのハイゲインサウンドを求め、絶え間ないパワーと明瞭さの絶妙なバランスを提供するFlatBackは、ハーモニックに豊かなオーバートーン、フルボディの低音、そして明瞭さを一体で提供する一押しサウンドです!
FlatBackV: OPUSのハイゲイン、ハイパワーFlatBackにオルタナティブな傾斜を! FlatBackVIは、ハイゲインサウンド(容赦ないゲイン、容赦ないパワーと巧みなレベルの正確さの完璧なブレンド)がお好みであれば、何度もリピートしたくなるプリアンプです!
 - Foundry Bass : プリスティンクリーンであれ、ペダルコレクションの土台であれ。つまり、クラシックなベースクリーンの典型であり、温かみのあるサチュレーションに溢れ、繊細なニュアンスまで捉えられるように設計されています。

プリアンプモデルをナビゲートするには、プリアンプ名の両側にある矢印をクリックします。プリアンプトーンをさらに微調整するために、以下のコントロールが提供されます:

- GAIN - このパラメータは入力信号に適用されるゲインレベルを決定します。
プリアンプモデルに応じて、このパラメータを高く設定するほど、プリアンプトーンはより駆動され、歪みやサチュレーションが強くなります。
- BASS - TSM™ プリアンプのトーンスタックの一部として、このパラメータはTSMプリアンプエミュレーションによって処理される低周波数成分の量を決定します。
- MIDDLE - TSM™ プリアンプのトーンスタックの一部として、このパラメータはTSMプリアンプエミュレーションによって処理される中音域周波数成分の量を決定します。
- TREBLE - TSM™ プリアンプのトーンスタックの一部として、このパラメータはTSMプリアンプエミュレーションによって処理される高周波数成分の量を決定します。

トップヒント: 各TSM™ プリアンプ内のトーンスタックとゲインカーブは、選択したプリアンプの固有のものであります。そのため、これらのコントロールを試してみることが望ましく、プリアンプトーンを理解するに非常に重要です。

2.2 TSM™ パワーアンプ

TSM™ パワーアンプパネルでは、真空管の画像をクリックするだけで、プッシュプル (PP) またはシングルエンド (SE) といったパワーアンプのトポロジーや、6L6、EL34、EL84、KT88 といった真空管の種類を選択および設定することができます。

トポロジーを選択すると、パワーアンプのトーンをさらに微調整するための以下のコントロールが提供されます:

- PENTODE / TRIODE スイッチ - このパラメータにより、真空管をTRIODEまたはPENTODE構成で使用するかを定義します。一般的なルールとして、PENTODEモードはTRIODEモードよりもヘッドルームと音量が大きい特徴があります。
- VOLUME - TSM™ パワーアンプの出力音量を設定します。
- DEPTH - 真空管ステージの周波数帯域 (バンド幅)を設定し、CONTOURがパワーアンプのトーンに与える影響の範囲を定義します。
- CONTOUR - パワーアンプのトーンレスポンスを設定します。50%でこのパラメータはバイパスされます。
- CONTOURはラウドネスEQのように機能し、50%を超えると信号の中域がカットされ、最終的なトーンに低域と高域の周波数成分がより多く含まれます。50%以下では低域がカットされ、高域が緩やかにロールオフされ、中域がより強調されます。

3. DynIR™ エンジン | キャビネットマイキング



Two notesのバーチャルキャビネットには、それぞれのキャビネットに特別にマッチした8本のマイクロフォンが付属しています。マイクチャンネルフェーダーの上の青いウィンドウをクリックして、マイクのリストにアクセスします。簡単に識別できるように、マイクはその基礎技術に基づいて説明されています:

DYNはダイナミックマイク、CNDはコンデンサーマイク、RBNはリボンマイクです。

各マイクチャンネル内で、マイク設置のキャビネットのトーンを微調整するために以下のコントロールが利用可能です:

- Channel Fader - 関連するマイクチャンネルの音量レベルをフェーダーで調整します。
- FRONT / BACK - 選択したマイクをキャビネットの前面または背面に配置するためのスイッチです。
- B - "バイパス" (B) ボタンを使用して、マイクチャンネルを通じて未処理の信号を送ります。
- M - ミュートボタン (M) を使用して、関連するマイクチャンネルをミュートします。
- Ø - フェーズボタン (Ø) を使用して、選択したマイクチャンネルの位相を反転させます。
- DISTANCE - DISTANCEノブを使用して、Torpedo Remote DynIR™ グラフィカルユーザーインターフェイスの指定されたマイキングクアドラント内でマイクを前後に移動させます。
- AXIS - AXISノブを使用して、Torpedo Remote DynIR™ グラフィカルユーザーインターフェイスの指定されたマイキングクアドラント内でマイクを水平方向に配置します。



・マイクは、Torpedo Remote DynIR™ グラフィカルユーザーインターフェイスのマイクパネル内に表示される台形のハイライト領域内で自由に移動できます。専用のスイッチでMIC AまたはMIC Bを選択し、コンピュータを使用している場合はマウスで、モバイルデバイスを使用している場合は指で、マイクの画像または関連するマイクスタンドを押してマイクを移動させます。

4. ポストFX



TSM™ アンプとDynIR™ エンジンパネルを通じて基礎となるトーンを定義した後、OPUSはさらにプリセットを洗練するための一連のポストFXを提供します。利用可能なポストFXコンポーネントは次のとおりです。

4.1 EQ

OPUSのEQには、GUITAR、BASS、およびCUSTOMの3つの動作モードがあります。GUITARとBASSモードでは、ゲイン範囲が-20dBから+20dBの5バンドEQが提供されます。CUSTOMモードは、ハイパスフィルターとローパスフィルターを備えた完全にカスタマイズ可能な5バンドのセミパラメトリックEQです。

Guitarモード: 120Hz、360Hz、800Hz、2000Hz、6000Hz

(各バンドの中心周波数、低い方から高い方へ)

Bassモード: 50Hz、120Hz、360Hz、800Hz、4000Hz

(各バンドの中心周波数、低い方から高い方へ)

Customモード: 各バンドは次のように構成されています:

- Low cut: ローカット、10~500Hz (12dB/オクターブのスロープ)
- Low: ローシェルフ、60~240Hz、±20dB
- LMid: ピーク、180~720Hz、±20dB
- Mid: ピーク、400~1600Hz、±20dB
- HMid: ピーク、1~4kHz、±20dB
- High: ピーク、3~12kHz、±20dB

4.2 エンハンサー

OPUSのエンハンサーは、ギターやベース専用調整されたダイナミックおよびトーンシェーピングツールを提供します。

- Dry/Wet: キャビネットシミュレーション信号とエンハンサーによって処理された信号のバランスを調整します。ゼロ(ノブを完全に下げた状態)ではキャビネットシミュレーション信号のみが聞こえます。中央位置では、キャビネットシミュレーション信号のレベルがエンハンサー信号のレベルと等しくなります。フル(ノブを完全に上げた状態)では、エンハンサーによって処理された信号のみが聞こえます。
- Body: ハイパスフィルターを備えたコンプレッサーです(ギターモードでは100Hz、ベースモードでは150Hzに設定)。低中域以上の周波数にのみ影響を与え、トーンに厚みと存在感を与えます。
- Thickness and Brilliance: シックネスはトーンの低域を強調し、ブリリアンスは高域を強調します。シックネスはギターモードでは400Hz、ベースモードでは150Hzに設定されています。ブリリアンスはギターモードでは1500Hz、ベースモードでは2000Hzに設定されています。シックネスとブリリアンスのゲイン範囲は0から+15dBです。

4.3 リバーブ

OPUSには12種類のルームリバーブと、1つのカスタムリバーブが搭載されています。

リバーブを使用する際には、以下のパラメータにアクセスできます:

- ドライ/ウェット: 入力信号とリバーブのバランスを調整します。ノブが中央値にあると、両方のレベルが等しくなります。
 - プリセット: リバーブの音響環境を選択します。12のスペースと1つのカスタムリバーブがあります。
 - サイズ: シミュレートされた部屋の規模を、非常に小さいものから巨大なものまで調整します。
 - エコー: 反響のレベルを調整します。
-

-
- カラー: リバーブのトーンを暗めから明るめまで調整します。また、リバーブモジュールの音響特性を即座に変更する専用スイッチがあります。
 - REVERBモジュールの音響特性を変更する専用スイッチもあります。
 - ルーム: 早期反射が豊富で明るい音が特徴です。
 - アンビエンス: 微妙な早期反射と低音が強調されたレスポンスです。
-

プリセットの作成

OPUSのプリセットには以下のコンポーネントが含まれます:

- TSM™ プリアンプ
- TSM™ パワーアンプ
- エミュレートキャビネット (内蔵のDynIR™エンジンまたはサードパーティ製IRローダーを使用)
- 2つのマイク (DynIR™エンジンを使用する場合、8つの選択肢から2つを選択し、部屋内での位置を設定)
- ポストFX (NOISE GATE、EQ、ENHANCER、および/またはリバーブを含む)
- 定義されたプリセットレベル

1. DynIR™エンジンの使用



プリセットの基本となるトーンを作成するには、まずプリアンプ、パワーアンプ、およびキャビネットを選択します。OPUSには、内部メモリにあらかじめ32個のDynIR™バーチャルキャビネットがプリロードされています。OPUSの内部メモリには、DynIRキャビネット用に合計64個の-slotがあります。青いスクリーンまたはドロップダウン矢印をクリックして、OPUSにプリロードされているキャビネットのリストにアクセスできます。Torpedo Remoteのフィルタリングオプションを使用して、次の操作が可能です:

- 結果をフィルタリングして、BASSまたはGUITARキャビネットを表示します。
 - 「TORPEDO」を選択して、ユニットに保存されているキャビネットを表示し、試聴します。
 - 「COMPUTER」を選択して、コンピュータに保存されているライセンスに含まれるキャビネットをプレビューします。
 - 「ONLINE」。このボタンにチェックを入れると、700以上のDynIR™の全カタログが表示されるため、閲覧可能なキャビネットのリストが大幅に増えます。
-

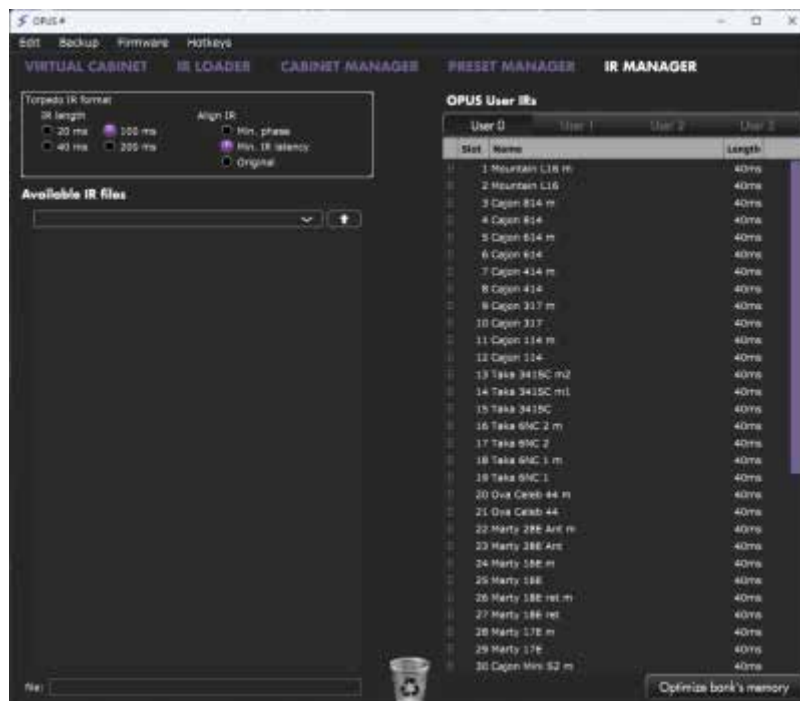
2. サードパーティ製IRの使用

OPUSは最大512個の静的IRをロードできます。静的IRのインポートは、デスクトップ版Torpedo RemoteのIR MANAGERタブを通じて行います。OPUSにアップロードする際、IRの長さを20ms、40ms、100ms、または200msに設定できます。IRが指定された長さよりも長い場合、Torpedo Remoteによって選択した長さに短縮され、短い場合は選択した長さまで拡張されます（ゼロで埋められます）。OPUSの内部メモリには、DSPアーキテクチャにインポートされたIRの長さに応じて、以下のスロットが許容されています：

- 20ms IR用に512スロット（4バンクで各128スロット）
- 40ms IR用に256スロット（4バンクで各64スロット）
- 100ms IR用に84スロット（4バンクで各21スロット）
- 200ms IR用に44スロット（4バンクで各11スロット）

静的IRを読み込むには、まずTorpedo RemoteでIR LOADERモードを選択してください。このウィンドウはVIRTUAL CABINETに似たレイアウトになります。OPUSの内部メモリに2つの静的IRファイルを同時にロードできます（各チャンネルに1つのIR）。各チャンネルには以下のコントロールが利用できます：ミュート（M）、バイパス（B）、フェーズ（φ）、およびIRボリューム（チャンネルフェーダーを通じて操作）。さらに、OPUSに内蔵されているEQ、ENHANCER、REVERBなどのポストFXスイートを使用して、静的IRの音色をさらに調整できます。

OPUSにサードパーティ製IRをインポートまたは削除するには、Torpedo Remoteを介してOPUSをTwo notesアカウントに登録する必要があります。ゲストモードでTorpedo Remoteを使用している場合、サードパーティ製IRをインポートまたは削除することはできません。ファイルをOPUSの内部メモリにロードするには、IR MANAGERウィンドウを使用してください。



左側のパネルにはコンピュータに保存されているファイルが表示されます。ここでは、静的IRを保存したフォルダーを参照できます。右側のパネルには、OPUSの内部メモリに読み込まれているIRファイルが表示されます。静的IRをコンピュータ（左）からOPUS（右）にドラッグ&ドロップして、OPUSの内部メモリに追加できます。OPUSのメモリスロットを解放したい場合は、削除したい静的IRファイルをIR MANAGERウィンドウの下部にあるゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。これは静的IRをコレクションから削除するのではなく、OPUSの内部メモリから削除するだけです。

静的IRをOPUSに転送する前に、Torpedo IRフォーマットペインで静的IRを設定するオプションが提供されます。

IR length :IRの長さを長くすることで、Torpedo処理の解像度が向上する(精度が上がれば、低域の精度が向上する)。40msのIRは、OPUSの内部メモリに2つのスロットを使用することに注意してください。

IR Off set: IRファイルの処理方法を変更する3つのオプションがあります:

- 1.**Min Phase**: アルゴリズムがファイル内のサンプルを移動させ、他のIRファイル(同じ機能を使用して転送した他のファイル)と位相が一致するようにします。
- 2.**Min. IR Latency**: ファイルは最初のサンプルの前に無音がないようにカットされます。これにより音質が変化する可能性があります、レイテンシーは最小限になります。
- 3.**Original**: ファイル内のサンプルは変更されません。他のIRファイルとミキシングする際に位相キャンセルの問題が発生する可能性があります。

コンピュータのハードドライブに保存されている静的IRファイルを直接使用することが可能です。この場合、プレビューモードに入ります。このモードでは、IRスロットAで一度に1つのIRしか使用できません。このIRを使用してプリセットをコンピュータに保存することはできますが、OPUSの内部メモリには保存できません。IRを使用する際にTorpedoの完全な処理にアクセスするには、ファイルをまずOPUSの内部メモリに直接インポートしてください。

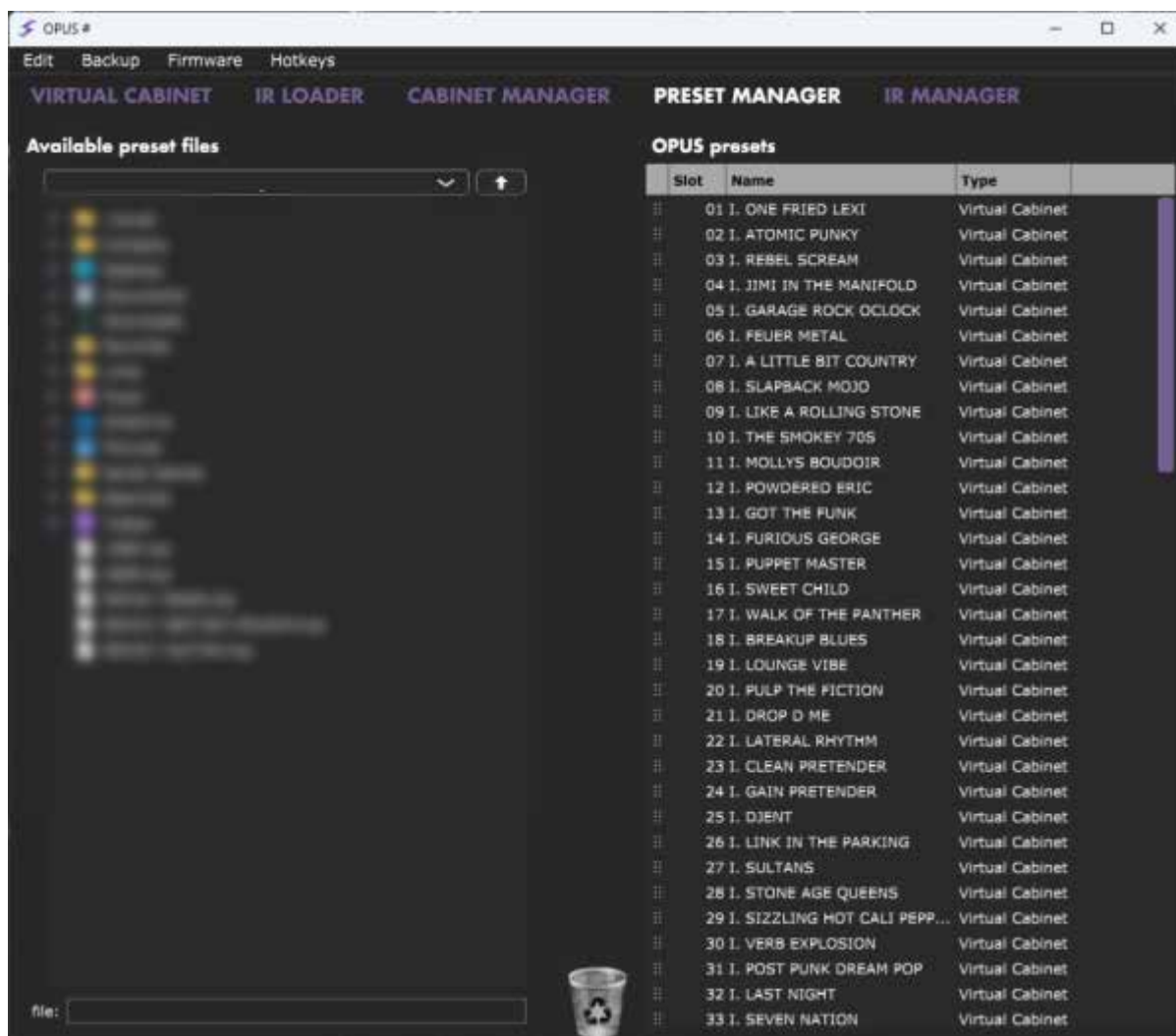
3. プリセットの保存

OPUSのTorpedo Remoteユーザーインターフェースの上部にあるプリセットラックを使用して、プリセットを保存およびロードできます。

- OPUSの内部メモリにプリセットを保存するには、「TORPEDO」ロケーションを選択します。OPUSにはプリセット用のメモリスロットが99個あります。
- プリセットをコンピュータに保存するには、「COMPUTER」ロケーションを選択します。ここではプリセットの制限はありません。

プリセットが保存されたら、PRESET MANAGERタブを使用してTorpedo Remote内のプリセットを管理します。

左側のパネルにはコンピュータ上のプリセットフォルダーが表示されます。右側のパネルには、OPUSに保存されているプリセットが表示されます。



プリセットを上下に動かすと、OPUSでの並び順が変わります。プリセットを削除するには、それらを下のゴミ箱にドラッグ&ドロップします。左側のパネル(コンピュータ)から右側のパネル(OPUSの内部メモリ)にプリセットをドラッグ&ドロップして、プリセットをコンピュータからOPUSハードウェアに転送します。

アコースティックDIとしてのOPUSの使用

OPUSはエレクトロアコースティックギターと併用することで、DIライブフィードを強化し、録音シナリオでの可能性を広げることができます。

1. 接続とルーティング

アコースティックギターの出力をOPUSの入力に接続し、IN LEVELをINST/+12dBに設定します。最適な使用のために、プリセット内でTSM™プリアンプおよびパワーアンプ処理をバイパスすることをお勧めします。

2. アコースティックIRの読み込み

静的IR (アコースティックIRまたは伝統的なギターキャビネットからキャプチャされたもの)を読み込むには、Torpedo RemoteのIRローダータブに移動し、IRスロット (IR AおよびIR B)のいずれかに最大2つのファイルを選択して読み込みます。その後、IR AおよびIR Bチャンネルのコントロールを使用して、OPUSプリセット内でのIRのブレンドを調整できます。



場合によっては、IRを適用した信号とDIされたアコースティックギターの自然な音をブレンドしたいことがあります。これを行うには、単にIRローダー処理ブロックを通してドライ信号をルートするために、IR AまたはIR Bミキサーペイン内にある「B」スイッチをバイパスします。IR AまたはIR Bのチャンネルフェーダーを使用することで、ドライ信号とウェット信号のミックスが実現できます。ご注意ください。このバイパス処理は、ソース信号のIR処理を削除するだけで、IR処理ブロック外の処理 (TSM™ プリアンプおよびパワーアンプエミュレーションやOPUSのポストFXスイートなど)は引き続きドライ信号に適用されます。

トップヒント: OPUSで処理された完全なシグナルチェーンと、影響を受けていないドライ信号を融合させるには、LINE OUT ROUTING機能を使用してドライ信号とウェット信号を適切なソース (例:ミキサーやオーディオインターフェース)に別々に送信し、ドライ/ウェットミックスを処理することをお勧めします。

3. プリロードされたアコースティックIRのリスト

以下のアコースティックIRが、OPUSに初期設定でプリロードされています。

- Mountain L16 m - ヤマハ® LL16からインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したもの。
- Mountain L16.wav - ヤマハ® LL16からインスパイア。
- Cajon 814 m.wav - Taylor® 814ce Deluxeからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したもの。
- Cajon 814.wav - Taylor® 814ce Deluxeからインスパイア。

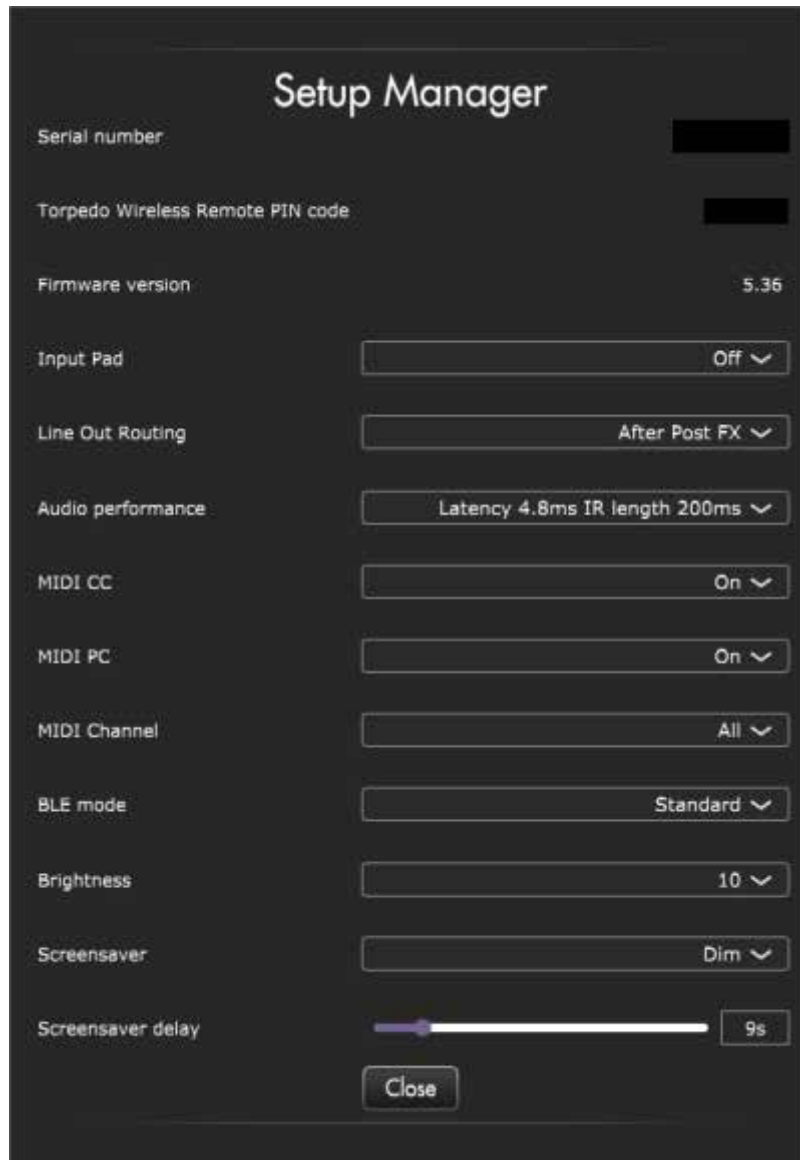
-
- Cajon 614 m.wav - Taylor® 614ceからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Cajon 614.wav - Taylor® 614ceからインスパイア。
 - Cajon 414 m.wav - Taylor® 414ceからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Cajon 414.wav - Taylor® 414ceからインスパイア。
 - Cajon 317 m.wav - Taylor® 317eからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Cajon 317.wav - Taylor® 317eからインスパイア。
 - Cajon 114 m.wav - Taylor® 114ceからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Cajon 114.wav - Taylor® 114ceからインスパイア。
 - Taka 341SC m2.wav - Takamine® EF341SCからインスパイア。
リヴォイシング
 - Taka 341SC m1.wav - Takamine® EF341SCからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Taka 341SC.wav - Takamine® EF341SCからインスパイア。
 - Taka 6NC 2 m.wav - Takamine® P6NCからインスパイア、ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Taka 6NC 2.wav - Takamine® P6NCからインスパイア。
 - Taka 6NC 1 m.wav - Takamine® P6NCからインスパイア。
 - Ova Celeb 44 m.wav - Ovation® Celebrity CE44からインスパイア、ポストプロでリヴォイシングを施したものの。
 - Ova Celeb 44.wav - Ovation® Celebrity CE44からインスパイア。
 - Marty 28E Ant m.wav - Martin® HD-28Eからインスパイア、ポストプロセスでリヴォイシングを施したものの。
 - Marty 28E Ant.wav - Martin® HD-28Eからインスパイア
 - Marty 16E m.wav - Martin® GPC-16E Matrix VTEからインスパイア、ポストプロセッシング・リヴォイシングを施したものの。
 - Marty 16E.wav - Martin® GPC-16Eからインスパイア
 - Marty 18E Ret m.wav - Martin® D18E Retroからインスパイア、ポストプロセッシング・リヴォイシングを施したものの。
 - Marty 18E Ret.wav - Martin® D18E Retroからインスパイア
 - Marty 17E m.wav - Martin® 000-17E Matrix VTEからインスパイア、ポストプロセッシング・リヴォイシングを施したものの。
 - Marty 17E.wav - Martin® 000-17E Matrix VTEからインスパイア
 - Cajon Mini S2 M.wav - Taylor® GS Mini Koa ES2からインスパイア、ポストプロセスでリヴォイシングを施したものの。
 - Cajon GS Mini ES2.wav - Taylor® GS Mini Koa ES2からインスパイア
 - Federation 150CE M.wav - Guild® D-150ceからインスパイア、ポストプロセッシング・リヴォイシングを施したものの。
 - Federation 150CE.wav - ギルドD-150ceからインスパイア
 - Nashville 200 2 m.wav - ギブソンSJ-200 Standardインスパイア
 - Nashville 200 2.wav - Gibson® SJ-200 standardからインスパイア
 - Nashville 200 1 m.wav - Gibson® SJ-200 standardからインスパイア
 - Nashville 200 1.wav - Gibson® SJ-200 standardからインスパイア
 - Nashville 45 Studio m.wav - Gibson® J-45 Standardからインスパイア、ポストプロセッシング・リヴォイシングを施したものの。
 - Nashville 45 Studio.wav - Gibson® J-45 Standardからインスパイア
 - Nashville 45 2 m.wav - ギブソン® J-45 Standardからインスパイア、ポストプロセスでリヴォイシングを施したものの。
 - Nashville 45 2.wav - ギブソン® J-45 Standardからインスパイア
-

-
- Nashville 45 1m.wav - ギブソン® J-45 Standardードからインスパイア。
ポストプロセスでリヴォイシングを施したものの。
 - Nashville 45 1.wav - ギブソン® J-45 Standardからインスパイア。
 - Nashville Humbird 2 m.wav - Gibson® Hummingbird Standardからインスパイア、
ポストプロセッシングでリヴォイシングを施したものの。
 - Nashville Humbird 2 .wav - ギブソン® Hummingbird Standardからインスパイア
 - Nashville Humbird 1 m.wav - Gibson® Hummingbird Standardからインスパイア、
ポストプロセスによるリヴォイシングを施したものの。
 - Nashville Humbird 1.wav - ギブソン®ハミングバード・スタンダードからインスパイア
 - Seoul 710 m.wav - Cort® MR710Fからインスパイア
 - Seoul 710.wav - Cort® MR710Fからインスパイア

OPUSのアコースティック・インパルス・レスポンス・ライブラリでは、各IRに2つのバージョンが用意されています。標準バージョンと、「m」の文字が付いた「matched」バージョン(例:Seoul 710.wavとSeoul 710 m.wav)があります。

mバージョンは、よりバランスの取れた音色を生成するために、後処理アルゴリズムに通されています。対照的に、非マッチ・ファイルはやや低音が強いと感じられるかもしれません。OPUSのEQを使用して音色のバランスを整え、強化することをお勧めします。さらにまた、生のDITーンとマッチしていないAcoustic IRをブレンドして試してみることも、最良の結果を得るためにお勧めします。

セットアップマネージャー



SETUPウィンドウで、OPUSのコア情報とグローバル設定プリファレンスにアクセスします。これらの設定はグローバルなもので、すべてのプリセットに影響します。プリセットごとに保存されることはありません。

1. 製品情報

SETUPマネージャーには、ペダルのシリアル番号、OPUSとモバイル機器のペアリングに使用するピンコード（TORPEDO WIRELESS REMOTE PIN CODE）、機器にインストールされているファームウェアのバージョンが表示されます。

2. インプットパッド

INPUT PADはデフォルトでOffに設定されている。これは、OPUSのオーディオDSPに到達する前に、ソースオーディオの入力レベルを下げるように設計されています。INPUT PADは技術的な補正ツールであり、信号を10dB減衰させるクリエイティブなツールではありません。

INPUT PADを設定する前に、まず3ウェイIN LEVELスイッチを入力ソースの性質に合わせて設定することが重要です。

-
- 楽器を接続する場合は、スイッチをINSTに設定します。
 - ラインレベルの信号を出力するハードウェアオーディオ機器を接続する場合は、スイッチをLINEに設定します。
 - アンプを接続する場合は、スイッチをAMPに設定します。

信号の条件に合わせて3ウェイIN LEVELスイッチを正しく設定した後、OPUSがクリッピング信号を表示した場合は、INPUT PADを使用してソース信号をさらに減衰させてください。

3. ライン出力のルーティング

OPUSのLINE OUT ROUTINGは、ペダルの画面から直接MENUにアクセスできます：

- まず、OPUSのOLEDディスプレイのプリセット・ウィンドウから、右エンコーダーを押してメイン・メニューに入ります。
 - 次に、右エンコーダーで「Global」メニュー（歯車のアイコン）に移動し、セクションをスクロールして、右エンコーダーを押してこのメニューに入ります。
 - Global Menuに入ったら、右のエンコーダーで「Line Out Routing」までスクロールします。
 - 右のエンコーダーで、OPUSのDSPアーキテクチャのどこに1/4インチ・ライン出力の信号を送るかを選択します：
- NO PROCESSING: LINE出力は、OPUSからのドライ入力信号を何も処理せずに送ります。この非処理信号はOPUSのDSPを通過するため、XLR DI出力と同じレイテンシーとなります。レイテンシーはAUDIO PERFORMANCEメニューで設定できます。
 - AFTER TSM PREAMPLIFIER: LINE出力はPREAMPの後に信号を送ります（この設定では、NOISE GATEは信号に影響を与えません）。
 - AFTER TSM POWER AMPLIFIER: LINE出力は、OPUS内のPREAMP、POWER AMP、NOISE GATEの後に信号を送ります。
 - AFTER CAB SIM: LINE出力は、OPUS内のDynIRキャビネットエミュレーションマイク・チャンネルのボリューム・レベルの後に信号を送ります。
 - AFTER POST FX: LINE出力は、OPUS内のすべてのDSPプロセッシングをフィーチャーした信号を送ります。この設定では、LINE出力とDI出力は同じ処理された信号を送ります。
 - LINE OUTPUT ROUTINGはTorpedo RemoteのSETUPメニューからも設定できます。異なるオプションはLINE OUT ROUTINGの隣にあるドロップダウンメニューに表示されます。

なおLINE OUTPUT ROUTINGはTorpedo RemoteのSETUPメニューからも設定できます。異なるオプションはLINE OUT ROUTINGの隣にあるドロップダウンメニューに表示されます。

ヒント: 追記LINE OUTのレベルは、DSPを中心とした処理に関係なく、PRESETとVOLUMEのレベルに直接影響されることに注意することが重要です。

4. オーディオパフォーマンス

このメニュー項目で表示されるレイテンシーは、入力から出力まで測定された装置全体のレイテンシーの合計です。最も高い設定でも、再生時に気にならない程度にレイテンシーは低くなります。しかし、レイテンシーは累積的なものであり、複数のデジタル製品を使用すると加

算され、その結果、レイテンシーが目立つようになることがあります。その場合、この設定を下げると便利です。OPUSでは以下の設定が可能です。

- IR 長さが40msの場合、レイテンシーは2.2msです。
- IR 長さが100msの場合、レイテンシーは3.5msです。
- IR 長さが200mの場合、レイテンシーは4.8msです。

5. MIDI

OPUSは、プリセット変更コマンド（プログラムチェンジまたはPC）とパラメーター変更コマンド（コントロールチェンジまたはCC）の両方を受け入れるように設計されており、対応するMIDIコントローラー（例：MIDIペダルボード）からユニット上のすべてのパラメーターに即座にアクセスできます。SETUP MANAGERウィンドウでは、以下の設定を行うことができます：

- OPUSがプログラムチェンジおよび/またはコントロールチェンジコマンドを受信するかどうかを定義します。例えば、プリセット切り替え（PC）のみを使用する予定の場合、CC受信機能をオフに設定できます。
- ユニットが受信するMIDIチャンネルを定義します。ここでは、どのチャンネルからコマンドが送信されているか分からない場合に便利な「すべてのチャンネルを受信」するように選択できます。
- MIDIモニターを使用して、OPUSがコマンドを正しく受信しているか確認します。

詳細については、すべての可能なコマンドチェンジMIDIメッセージの詳細な説明についてMIDIチャートセクションを参照してください

6. BLEモード

OPUSからのBluetooth発信レベルを以下のオプションに従って設定することができます：

- ロープロファイル：最も低い発信レベル
- スタンダード：Bluetooth発信レベルの工場出荷時設定
- ロングレンジ：モバイルデバイスとの長距離接続のための最も強力な発信レベル

7. 画面設定

7.1 明るさ

この設定は、OPUSのOLEDディスプレイの明るさを調整します。

7.2 明るさ

この設定では1秒から60秒の事前設定された一定期間後に、アニメーションを選択するか、ディスプレイの明るさを暗くするか、または画面をスリープモード（オフになる）にすることができます。

Torpedo RemoteなしでOPUSを OLEDディスプレイとロータリーエンコーダーを 使用して操作する

OPUSは完全な独立型操作性のOLEDディスプレイとデュアルロータリーエンコーダーを備えています。

1. 操作環境



1. プリセット番号
2. プリセット名
3. 入力および出力レベルのバーグラフ
4. 出力レベル

デフォルトでは、OPUSのPERFORMウィンドウには以下が表示されます

- ・現在ロードされているプリセット番号と名前
- ・出力レベルの値
- ・入力および出力のバーグラフが、それぞれの信号レベルを示します（信号がオーディオプロセッサをクリップすると、関連するバーグラフに「CLIP」のメッセージが表示されます）。

プリセットが編集されると、前述のバーグラフの横に星印が画面に表示されます。編集されたプリセットを同じプリセット位置（または新しいプリセット位置）に保存すると、この星印が消え、プリセットが上書きされたことを示します。



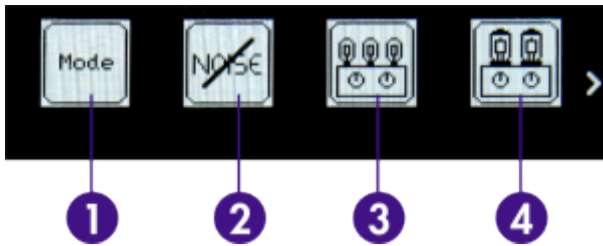
プリセット名は32文字以内のアルファベットまたは数字に制限されています。使用可能な文字は、大文字のAからZ、0から9、そしてスペースです。

2. メニューのナビゲーション

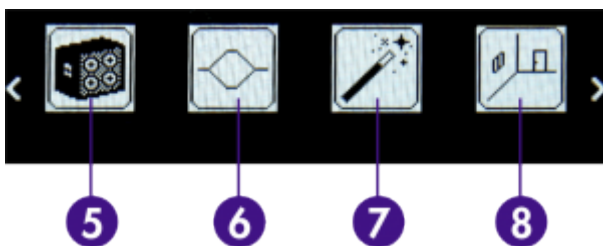
MENU環境では、プリセットのすべての編集可能なパラメーターにアクセスでき、それを修正したり、ゼロから自分のトーンを作成したりすることができます。PERFORM環境からMENU環境に入るには、左側の (MENU) ボタンまたは右側の (ENTER) ボタンを押します。これにより、MENU環境の「トプレイヤー」が表示され、編集可能なさまざまなDSP処理ブロックが一覧表示されます。任意のセクションに入ると、レイヤーが一つ下がり、プリセット（またはデバイス）のパラメーターにアクセスできます。MENU環境では、エンコーダーは次のように動作します：

- 左側の (PARAM) エンコーダーを回すと、編集したいDSP処理ブロックやパラメーターを選択します。
- 右側の (VALUE) エンコーダーを回すと、選択されたセクションやパラメーターの値が変更されます。
- 左側の (MENU) エンコーダーを押すと、メニューの一つ前のレベルに戻り、最終的にPERFORM環境に戻ります。
- 右側の (ENTER) エンコーダーを押すと、選択されたセクションに入り、または選択されたパラメーターが切り替わります。

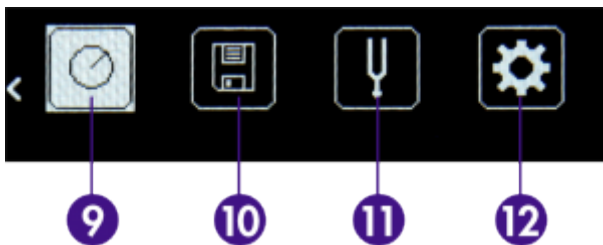
任意のセクションに入り、関連するパラメーターを編集するには、PARAMエンコーダーを回して該当するセクションまでスクロールし、ENTERを押してセクションに入ります。セクションによっては、VALUEエンコーダーを回すことで、セクションに入らずに直接変更できる場合もあります。ほとんどのDSP処理ブロックでは、これによりONまたはOFFが切り替わります（その場合、画像はネガティブモードで表示されます）。MENU環境には12のセクションがあります（各セクションはTorpedo Remoteと同じで、ミラーリングされたコントロールを共有しています）。



1. **Mode:** DynIR™ エンジンモードを使用してDynIR™ キャビネットを使用するか、IRローダーモードでサードパーティ製IRを使用するかを選択します。
2. **Noise Gate:** ノイズゲートを有効にして設定します。
3. **Preamp:** 10種類のTSM™プリアンプの中から選び、専用のプリアンプコントロールでトーンを調整します。
4. **Power Amp:** パワーアンプのチューブのタイプと構成を選択します。



5. **Miking:** DynIR™ エンジン内でキャビネットシミュレーション、マイクの位置、マイクミキサーのパラメータを選択します。
6. **EQ:** 3つのEQモード（ギター、ベース、カスタム）のいずれかを使用してトーンを調整します。
7. **Enhancer:** ギターやベースに特化したダイナミックおよびトーンシェーピングツールの組み合わせを適用します。
8. **Reverb:** 12種類のアコースティック環境から選択し、関連するパラメータを使用してリバーブを微調整します。



9. **Preset Level:** OPUSハードウェア内の他のすべてのプリセットと整合性を持たせるために、OPUSプリセットのレベルを定義します。
10. **Save:** プリセットをOPUSの専用内部メモリスロットに保存します。
11. **Tuner:** OPUSの内蔵チューナーで楽器をチューニングします。
注: 右エンコーダーノブを長押しすることでチューナーにもアクセスできます。
12. **Global:** 上記のプリセットレベル設定以外のすべての一般設定にアクセスします。ここでは、BluetoothペアリングのためのPINコード、シリアル番号、OPUSデバイスのファームウェアバージョンも確認できます。

仕様

1. キャビネットのリスト

名称	解説
ギターキャビネット	
NOISE FACTORY RIVERBANK 212 WHITE LABEL	Rivera® Hundred Duo Twelve ギターキャビネットにCelestion® G12L-55スピーカーを搭載モデルからインスパイア
PURPLEHAZE	Marshall® 1982B トールボックスギターキャビネットにCelestion® 12インチ Heritage G12Mスピーカーを搭載モデルからインスパイア
MII VT 412 FAT	VHT® ギターキャビネットにEminence® 12インチ P50Eスピーカーを搭載モデルからインスパイア
BHG Exquisite Green	Matchless® ESD 2×12 ギターキャビネットにCelestion® カスタム G12-25 Greenback speakersスピーカーを搭載モデルからインスパイア
THE ROCK CLUB	Marshall® 1960AV ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
PHIL X MLC	アーティストシリーズキャプチャー (Phil X) で、MLC Custom 4×12 ギターキャビネットにWarehouse® 12インチ Veteran 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
LYNCH CITRUS	アーティストシリーズキャプチャー (George Lynch) で、Orange® 4×12 ギターキャビネットにEminence® 12インチ Squarebackスピーカーを搭載モデルからインスパイア
PT PT15 Signature 2×12	アーティストシリーズキャプチャー (Pete Thorn) で、Suhr® 2×12 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
FRIEDMAN 412 VINT	アーティストシリーズキャプチャー (Davie Friedman) で、Friedman® 4×12 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
ANGL PRO30	Engl® E412VG Pro ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
BLONDE 63	Fender® Bassman '63 Blonde Tolex Piggy Back ギターキャビネットにOxford® 12インチ 12M6 XG875スピーカーを搭載モデルからインスパイア
BRIT 60A	Marshall® 1960A ギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12T-75スピーカーを搭載モデルからインスパイア
STEVENS BRITMALIBUS 412 BLACK	アーティストシリーズキャプチャー (Steve Stevens) で、Marshall® 4×12 ギターキャビネットにCelestion® G12M Blackbackスピーカーを搭載モデルからインスパイア

名称	解説
FASTBACK25	Marshall® 4×12 パープルスラントギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12M-25 Greenbackスピーカーを搭載モデルからインスパイア
FREE ROCK2	VHT® Deliverance 4×12 ギターキャビネットにEminence® 12インチ P-50-Eスピーカーを搭載モデルからインスパイア。
GREENARTC	Marshall® 2033 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12H-30 スピーカーを搭載モデルからインスパイア。
JAZZ 120	Roland® Jazz Chorus JC-120 ギターキャビネットにRoland® 12インチ 60Wスピーカーを搭載モデルからインスパイア。
KEROZEN	Diezel® 4×12 フロントローデッドギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12K-100スピーカーを搭載モデルからインスパイア
NOS V30	NOS® V30 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
SILVERJEN	Fender® Twin Reverb ギターキャビネットにJensen® 12インチ C12K スピーカーを搭載モデルからインスパイア
TANGER 30C	Orange® Vintage 4×12 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12Hスピーカーを搭載モデルからインスパイア
VOICE 65	Vox® AC30/6 TB コンボギターキャビネットにVox® / Celestion® 12インチ Silver Bell Alnicoスピーカーを搭載モデルからインスパイア
XTCAB	Bogner® Ecstasy 4×12 ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
BRIT VINT C	Marshall® Slash Signature ギターキャビネットにCelestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
CALIF STDC	Mesa Engineering® Rectifier 4×12 スタンダードギターキャビネットに Celestion® 12インチ Vintage 30スピーカーを搭載モデルからインスパイア
Watt FanC	Hiwatt® HG212 ギターキャビネットにFane® 12インチ Axiom 12-100Lスピーカーを搭載モデルからインスパイア
GREEN TRI	Hughes & Kettner® TriAmp コンボギターキャビネットにCelestion® 12インチ G12M-25 Greenbackスピーカーを搭載モデルからインスパイア
ベース キャビネット	
2NOTES CSB	Custom® CSBベースキャビネットにCustom® 15インチのカスタムスピーカーを搭載モデルからインスパイア
ALU XL	Hartke® 410XLベースキャビネットにHartke® 10インチXLアルミニウムコーンベースドライバースピーカーを搭載モデルからインスパイア
DUAL BW15	Peavey® PV 215DベースキャビネットにPeavey® 15インチ Black Widow 1505-8スピーカーを搭載モデルからインスパイア
FRIDGE 9	Ampeg® V-9ベースキャビネットにEminence® 10インチカスタムスピーカーを搭載モデルからインスパイア
MARCO	Markbass® Traveler 102PベースキャビネットにMarkbass® 10インチカスタムネオジムスピーカーを搭載モデルからインスパイア。

2. MIDI チャート

CC#	Processing block	Naming	Ranges	Details
0	Preset mode	Preset mode	0-1	0 = DynIR Engine ; 1 = IR loader
1	Noise Gate	On / Off	0-1	0 = Off ; 1 = On
2		Mode	0-1	0 = Soft ; 1 = Hard
3		Threshold	0 - 80	0 = -80dB ; 80 = 0dB
4	Preamp	On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On

5		Model	0 - 9	0 = Foundry ; 1 = Foxy ; 2 = Albion ; 3 = NiftyFifty ; 4 = Peggy ; 5 = Tanger ; 6 = Eldorado ; 7 = Aviator ; 8 = Gemini ; 9 = Flatback	
6		Gain	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%	
7		Treble	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%	
8		Middle	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%	
9		Bass	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%	
10	Power Amp	On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On	
11		Model	0 - 7	0 = SE 6L6 ; 1 = SE EL34 ; 2 = SE EL84...	
12		Volume	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%	
13		Push-Pull (PP) Models only	Countour	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
14			Depth	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
15		Type	0 - 1	0 = Triode ; 1 = Pentode	
16	Miking	On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On	
17		DynIR Engine only	Virtual Cabinet	0 - x	0 = DynIR #0 ; 1 = DynIR #1...
18			Mic A : Model	0 - 7	0 = Mic #1 ; 1 = Mic #2...
19			Mic B : Model	0 - 7	0 = Mic #1 ; 1 = Mic #2...
20			Both modes	Mic A : Level	0 - 127
21		Mic A : Bypass		0 - 1	0 = Off ; 1 = On
22		Mic A : Mute		0 - 1	0 = Off ; 1 = On
23		Mic A : Phase		0 - 1	0 = Normal ; 1 = Invert
24		Mic B : Level		0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
25		Mic B : Bypass		0 - 1	0 = Off ; 1 = On
26		Mic B : Mute		0 - 1	0 = Off ; 1 = On
27		Mic B : Phase		0 - 1	0 = Off ; 1 = On
28		DynIR Engine only	Mic A : Axis	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
29			Mic A : Distance	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
30			Mic A : Position	0 - 1	0 = Front ; 1 = Back
31			Mic B : Axis	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
32			Mic B : Distance	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
33			Mic B : Position	0 - 1	0 = Front ; 1 = Back
34		IR Loader	IR File A	0 - x	0 = File #0 ; 1 = File #1...
35	IR File B		0 - x	0 = File #0 ; 1 = File #1...	
36	IR Folder A		0 - 3	0= User 0 ; 1= User1; 2 = User 2 ; 3 = User 3	
37	IR Folder B		0 - 3	0= User 0 ; 1= User1; 2 = User 2 ; 3 = User 3	

38	Equalizer		On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On
39			EQ Mode	0 - 2	0 = Guitar ; 1 = Bass ; 2 = Custom
40		Custom mode only	Freq : Low Cut	0 - 127	Specific mapping to Hz
41			Gain: Low	0 - 30	0 = -15dB ; 15 = 0dB ; 30 = +15dB
42		Custom mode only	Freq: Low	0 - 127	Specific mapping to Hz
43			Gain: Low Mid	0 - 30	0 = -15dB ; 15 = 0dB ; 30 = +15dB
44		Custom mode only	Freq: Low Mid	0 - 127	Specific mapping to Hz
45			Gain: Mid	0 - 30	0 = -15dB ; 15 = 0dB ; 30 = +15dB
46		Custom mode only	Freq: Mid	0 - 127	Specific mapping to Hz
47			Gain: High Mid	0 - 30	0 = -15dB ; 15 = 0dB ; 30 = +15dB
48		Custom mode only	Freq: High Mid	0 - 127	Specific mapping to Hz
49			Gain: High	0 - 30	0 = -15dB ; 15 = 0dB ; 30 = +15dB
50		Custom mode only	Freq : High	0 - 127	Specific mapping to Hz
51			Freq : High Cut	0 - 127	Specific mapping to Hz
52	Enhancer		On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On
53			Instrument	0 - 1	0 = Guitar ; 1 = Bass
54			Dry / Wet	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
55			Body	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
56			Thickness	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
57			Brilliance	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
58	Reverb		On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On
59			Preset	0 - 12	0 = Studio A ; 1 = Studio B ; 2 = Basement...
60			Type	0 - 1	0 = Room ; 1 = Ambience
61			Dry / Wet	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
62			Size	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
63			Echo	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
64			Color	0 - 127	0 = 0% ; 63 = 50% ; 127 = 100%
65	Preset Level	Preset Level	0 - 107	"	
66	General		Master Volume	0 -100	0 = Mute ; 1-100 = Level
67			Master Mute	0 - 1	0 = Off (no mute) ; 1 = On (mute)
68			Preset	0 - 99	0 = Preset #1 ; 1 = Preset #2...
69	Tuner		On / Off	0 - 1	0 = Off ; 1 = On

3. テクニカルデータ

入力/出力		
AMP / INST / LINE IN	1/4" バランスジャック (TRS)	
入カインピーダンス	AMP	160k Ω アンバランス / 300k Ω バランス
	LINE	37k Ω アンバランス / 55k Ω バランス
	INST.	1M Ω アンバランス

最大レベル (インプット パッド無し)	AMP	26.1dBu
	LINE	11.3dBu
	INST.	2.8dBu
最大レベル (インプット パッド有り)	AMP	36.2dBu
	LINE	20.8dBu
	INST.	12.3dBu
AUX IN	コネクタ	1/8" (3.5mm) TRS ジャック
	入力インピーダンス	29k Ω
TO SPEAKER 出力*	1/4" ジャック・バランス (TS)	*ヘッドアンプから直接、未処理、 バッファ無し
DI Output*	XLR バランス	※48Vファンタム電源に対して プロテクトされている
	最大レベル: 10dBu	
	出力インピーダンス: 600 Ω	
DI Output*	1/4" ジャック・バランス (TRS)	※48Vファンタム電源に対して プロテクトされていない
	最大レベル: 10dBu	
	出力インピーダンス: 600 Ω	
ヘッドフォン出力	1/8" (3.5mm) TRSジャック	
	最大出力: 300mW (100Ω以下)	
	出力インピーダンス 33Ω	
USBコネクタ	USB-C 2.0	
メモリー	内蔵メモリー	DynIRキャビネット用64スロット
		プリセット用99スロット
	メモリーカード	最大512スロット (20ms IR用) (詳細はこのセクションを参照)
メモリーカード	256Mb Micro-SD付属 最大32Gbのカードに対応 (サードパーティ製 IR のみ)	
デジタルオーディオ		
AD/DAコンバーター	スタジオグレード 24-bit / 96kHz	
帯域幅 (-1dB)	30Hz - 19kHz (-1dB)	
ダイナミックレンジ	101dB	
内部処理	32ビット浮動小数点	
レイテンシー	2.2ms (ライン入力~ライン出力)	
電源		
電源入力コネクタ	コネクタ: 2.1mm x 5.5mm	
	極性: センターマイナス	
	電圧: 12V DC	
	電流: 200mA	
	消費電力: 約2W	
付属アダプター	コネクタ: 2.1mm x 5.5mm	
	極性: センターマイナス	
	電圧: DC12V	
	最大電流: 2000ミリアンペア	
寸法と重量		
幅×奥行×高さ*	12.1cm x 10 cm x 6cm (4.8" 4" x 2.4")	※コネクタ、ツマミ含む
Weight	450g / 0.99 lbs	

テクニカルサポート

Two notes Audio Engineeringでは、迅速かつ効率的なテクニカルサポートを提供するため、オンラインサービス「Two notesヘルプデスク」をご用意しています。
また、Two notes製品に関するご質問やサポートが必要な場合は、お気軽にナレッジベースをご覧ください。

1. Two notes ウェブサイト（英語）

Two notes Audio Engineeringのウェブサイトでは、以下の情報をご覧頂けます。:

- 会社や製品に関するニュース（トップページののニュースセクション）
- OPUSとその多くのアプリケーションに関する包括的な情報（FAQ）、
- ファームウェアやソフトウェアのアップデート
(<https://www.two-notes.com/en/downloads/>)
- Two notesストアへのアクセスすると新しいキャビネットの購入が可能です。
- また、公式フォーラムでは他のTorpedoユーザーとヒントやアドバイスを共有できます。

ユーザーをサポートするために、Two notesスタッフは専門フォーラムにも頻繁に訪れています。

2. Eメール

TWO NOTESでは、Eメールによる技術サポートは提供しておりません。下記のURLにあるヘルプデスクを通じてお問い合わせください。

From:V3
<https://wiki.two-notes.com/> User's manuals

Permanent link:
https://wiki.two-notes.com/doku.php?id=opus:opus_user_s_manual

Last update:2024/02/29 09:44

